

知事あいさつ要旨

おはようございます。皆様方には大変お忙しいところ、大分県行財政改革推進委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃から行財政の適正且つ効率的な運営に当たり、いろいろとご指導を賜り、心から御礼を申し上げます。

7月早々に日田玖珠、耶馬溪を中心に水害がございました。大きな被害が出ています。まずは各家庭の後片付けということで、住民の皆さん、一生懸命努力しておりますけれども、高齢者だけの所帯等も多く、人手が足りないものですから、ボランティアの方にたくさん来ていただき、後片付けを応援していただいております。県からも多くの職員がボランティアに参加しています。急いでこの片付けを終わらせまして、河川それから農業施設、田畑が全部傷んでおりますので、その復旧工事を始めなければいけません。全力を挙げて復旧していきたいと思っておりますのでよろしくご指導のほどをお願い申し上げます。

そういう中、おかげさまで行財政改革は順調に進んでおりまして、23年度末の決算では、財政調整用基金の残高が455億円です。この委員会で、少なくとも年間予算の5%、300億円ぐらいは財政調整用基金として持つべきだとしておりましたけれども、そのことについては達成できたかなと思っております。また、県債の残高ですが、最近交付税の代替ということで臨時財政対策債というのが急増しておりますけれども、これを除きますと、実質的な意味での県債残高は7千573億円ということで、これも10年連続で減少しています。何とか成果が出ておりますけれども、まだまだ状況は予断を許しませんので、引き続きしっかりと行財政改革を実行していきたいと思っております。

そんな中、昨年はこの委員会でいろいろとご議論をいただきまして、「大分県行財政高度化指針」という新しい行財政改革の指針を掲げたところです。これをしっかり踏まえまして、さらに行財政改革を進めながら、これからいろんな問題が起こってくると思っておりますけど、そういうものに機動的に対応できるような行財政基盤を育てていきたいと思っております。振り返ってみますと、10年前、皆様方にこの行財政改革推進委員会でご議論いただいた時の最初のご指摘では、とにかく県庁職員の意識改革をしなければいけませんということが大変強く言われたところです。その後、ずいぶん意識改革も進みまして、今、上から下までとにかく行革ということが非常に頭の中に根付いています。やはり適正かつ効率的な行財政運営ということが大事だということが非常に頭に入ってきているんじゃないかなと思います。我々、行革実践力と言わせていただいておりますが、そういうものをフルに発揮しながら、引き続き、あらゆる時代に対応できるような行財政基盤を作っていきたいと思っております。引き続きよろしくご指導の程、お願い申し上げます。

今日は、議題といたしまして、包括外部監査の結果と、それから行政監査の結果についてご報告を申し上げ、ご意見をいただきたいと思います。包括外部監査に

つきましては、23年度は、県の補助金や負担金について監査いただきました。補助金・負担金の公益性は十分に担保されているのか、効率的にやられているのか、成果は上がっているのかということについての監査で、いろいろ厳しい指摘もいただきました。それから行政監査の方につきましては、公立学校の教材とかPTA等の団体費の取り扱いについて使途が適正なのか、あるいはまた管理が適正なのかということについてご指摘をいただいたところです。どちらも大事なことです。我々も真剣に対応をしなければならないと思っておりますが、今日はその指摘内容を報告し、それについていろいろご意見をいただければということです。よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。